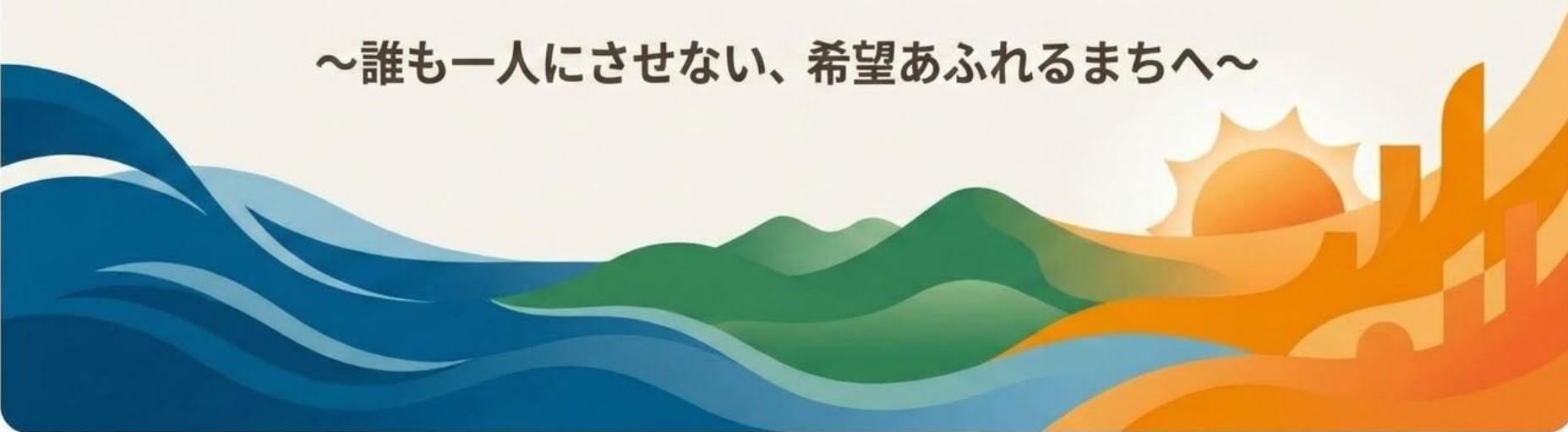


令和8年度 横須賀の未来地図

～誰も一人にさせない、希望あふれるまちへ～



横須賀が選ばれるまちへ。
確かな変化が起きています。

人口の社会減

54
人

平成25年以降で最少

ファミリー層は
199人
の転入超過

街でにぎわいが戻り、民間投資も増加しています。
横須賀は今、生活する場、次世代に引き継ぐ場として、再び選ばれ始めています。

3つの柱で描く、横須賀の「再興プラン」



令和8年度から始まる新たな4年間。

横須賀のプライドとアイデンティティを次世代へつなぐプロジェクトが始動します。

うまれる前から子育て支援。 切れ目のない安心を。

1



【市独自】
出産・子育て応援祝い金
「10万円」を支給

国の支援に上乗せし、経済的な
不安を和らげます。

2



産後ケア予約の
デジタル化 &
5歳児健診の新規実施

スマホで簡単予約。発達の特性
や悩みに早期に対応します。

3



公立保育園の
リニューアル進行中

南こども園 令和8年4月開園。
続いて西・北こども園も整備。
医療的ケア児の受け入れも拡大。

天気も時間も気にせず、 思い切り遊べるまちへ。

・全天候型の遊び場

三笠公園や大矢部みどりの公園に「大屋根」を設置。雨の日も猛暑の日も安心。さらに、屋内遊び場と児童図書館の複合施設も検討中。

・放課後の居場所

「放課後子ども教室」を全校設置完了。
利用時間を年間通じて16:30まで延長（30分拡大）。

・中学生以下無料

温水プールや猿島公園など、市の有料施設を無料開放。豊かな体験をすべての子どもたちに。



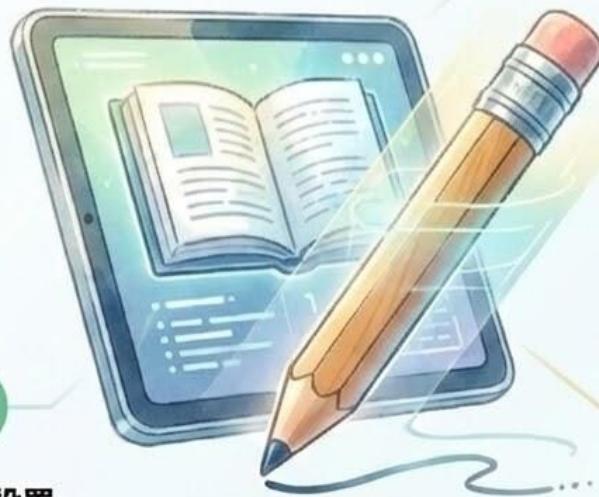
※生成AIによるイメージ図です
実物とは異なります。

「未来を生き抜く力」を育む、 学校の大改革。



誰も一人にさせない

「サポートルーム」を小中学校に設置。
不登校や障害のある児童生徒へ、
学習と心のケアを一体的に支援。



教育DX



全小学校・特別支援学校に電子黒板を導入。校務支援システム刷新と生成AI活用で、教員が子どもと向き合える時間を創出。

快適な環境



体育館の空調整備（令和11年度完了目標）とトイレの洋式化（令和9年度までに90%へ）。

横須賀のプライドとアイデンティティ。 「歴史」と「未来」をつなぐ2大プロジェクト。

【浦賀駅前周辺】



「第二の開国」へ。
造船のまちの記憶を継承し、
世界に開かれた拠点として再開発を推進。

【衣笠】



「大矢部みどりの公園」整備。
三浦一族ゆかりの地と豊かな自然を守り、
新たなコミュニティの拠点へ。

音楽・スポーツ・
エンターテイメントで、
心躍る都市へ。



スポーツの聖地

F・マリノス、ベイスターズの練習拠点誘致に加え、BMXやダンスなどアーバンスポーツも推進。

歴史ドラマ

2027年大河ドラマ（小栗上野介忠順公）を契機に、近代化の舞台・横須賀を全国へ発信。

観光の進化

三笠公園のリニューアル（令和9年）、猿島の日除け空間整備、大楠山山頂の360度パノラマ整備。



挑戦するなら横須賀で。 地域経済の好事例を作る。



YRP (リサーチパーク)

進出企業が70社まで回復(全盛期水準)。
サイバーセキュリティの中心地へ。



中小企業・雇用

人手不足解消のための職場環境整備や
採用強化を助成。就職氷河期世代や女性へ
のITスキル取得支援も開始。



ふるさと納税

寄附額12億円目標。返礼品開発(体験型・
宿泊型)で市内事業者を応援。



農水産業

「よこすか野菜」のブランド化と、藻場再生
(ブルーカーボン)による持続可能な漁業。

人生100年時代、 いつまでも自分らしく健康に。



データヘルス

健康データの分析対象を後期高齢者まで拡大（計13万人規模）。リスクの早期発見と保健師による支援を強化。



がん対策

乳がん・子宮頸がん検診の無料対象年齢を拡大。受診の習慣化をサポート。



人材育成

うわまち病院跡地に「市立看護系大学」を新設予定（令和14年開学目標）。地域医療の担い手を育てます。

必要な人に、必要な支援を。 「誰も一人にさせない」具体策。



障害者支援

医療的ケアや行動障害に対応するグループホーム整備を支援。



歯科受診機会の確保

通所送迎費用の助成拡充と、障害者歯科での全身麻酔治療体制の整備。



コミュニケーション

聴覚障害者向け「電話リレーサービス（手話通訳）」導入。AIを活用した多言語相談・傾聴相談システムも構築。

陸がダメなら「空」と「海」から。
命を守る防災体制。



能登半島地震の教訓＝
「道路寸断」への備え。

避難所の質向上



備蓄を「3日分」へ増量。

体育館空調は「ガス・電気ハイブリッド式」で停電時も稼動可能に。



次の世代へ、横須賀の豊かな自然 を手渡すために。



体制強化

「環境政策担当部」を新設。
ゼロカーボンシティ実現へ、
政策を一体的に推進。



ブルーカーボン

4市1町で連携し、海藻（藻場）の再生でCO2吸収と漁業回復を両立。



みどりの保全

長坂緑地が、国の「自然共生
サイト」に認定。大矢部みど
りの公園でも希少生物との共
生を学びの場に。

デジタルで効率化。 生み出した時間は「人の温もり」へ。



スマート市役所

生成AIアシスタントの全庁導入で事務を自動化。職員は、人にしかできない「寄り添う支援」に注力します。



利便性向上

キャッシュレス決済の拡大。産業交流プラザに「マイナンバーカードセンター」を開設し、待ち時間を短縮。



経営視点

単なる歳出削減ではなく、稼ぐ力と民間連携で財源を生み出す「責任ある財政運営」を継続。

つぼみは開き、花が咲き始めました。さあ、次の横須賀へ。

変化を力に変え、福祉と経済の好循環を止めることなく、
「横須賀に住んでよかった」と心から思えるまちに。

